

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「敬愛」を基本理念とし、基本方針では地域とのかかわり方についても記述されている。利用者の自己決定を尊重し、地域でその人らしく生活ができるようなサービスの提供及び支援を常に意識している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフルームや玄関には理念が掲示されており、職員は常に意識をして業務にあたっている。会議や勉強会の場においても、基本理念の確認は繰り返し行っている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入所契約時にはご利用者とご家族の方に分かりやすく説明させて頂いており、運営推進会議でも繰り返し確認を行っている。また苑内各所に掲示することをご利用者、面会者、見学者にも理解を得るように努めている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	中庭の足湯は近隣の方も気軽に利用され憩いの場となり、ご利用者とも声をかけあい顔なじみの関係もできている。また周辺を散歩することでお互いに気持ちよく挨拶を交わしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	木の香マラソンではご利用者と共に旗を作って応援、大川木工祭、大川市民夏祭り、文化祭等にはご利用者の方と一緒に参加することで地域交流もできている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	法人で開催される夏祭りや敬老会等の行事では地域住民の方も積極的に参加して頂いている。それらの行事を通じて、地域交流を深めると共に、地域福祉の向上に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価については、自施設が客観的に分析のできる成長の場としてとらえている。評価終了後には今後の目標や改善点を会議の場で話し合うようにしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においての内容は会議録として全職員が閲覧し、苑内の会議の場ではサービスの向上の為、話し合っている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当職員は連携の重要性を十分に認識している。綿密な報告・連絡・相談を行い、サービスの維持向上に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ご利用者の中で制度を利用されている方はおられないが、相談支援ができるように職員は勉強会の場で理解を深めるように努めている。また社会福祉士が責任者として配置されており、ご利用者、ご家族、地域の方より相談があった際にはいつでも相談のできる体制も整っている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の場で学習できており、職員間においても虐待防止に対して責任意識を強く持つように指導している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にその内容に関する説明を徹底している。難しい専門用語はなるべく使わずにわかりやすく説明をすることで、不安や疑問についての解消・軽減を図っている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者からの意見、不満、苦情については法人内の委員会にて検討できるよう、記録に残すようにしている。また運営推進会議の場においても話し合い、改善できる体制を整えている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的なものとしては、請求書送付の時、月間広報誌を同封したり、適宜文章や写真同封により情報提供、理解をはかるよう努めている。原則、現金のお預かりはしてないが、経済活動を阻害することのないよう嗜好品購入の時などは苑で立て替え、精算させて頂いている。異動等に伴うスタッフの入れ替えについては、可能な限り速やかにご家族に紹介すると共にご利用者にもご説明している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書の中に苦情受付窓口を表記し周知をはかり、また、ご意見箱を設け、色々な手段で苦情を受け付けられるように努めている。又、社会福祉法人として、第三者委員会を設置していることを上記説明書に表記のうえ、公正中立の立場で苦情処理が可能となっていることをご説明している。		苦情はサービスの質の向上につながるものであり、心に思っておられることを言って頂けるように、ご家族との信頼関係をより築き上げていきたい。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の原則職員全員参加の全体会議を設け、ご利用者の情報の共有並びにスタッフの意見の表現の場を設け、不満と意見を客観的に見極め、建設的な運営が出来るように心がけている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事や夜間などにおける通院介助、入院等緊急避難的対応についても、併設施設の宿直等との柔軟な対応連携の元スタッフの速やかな話し合いの元、ご利用者本意の運営を心がけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員個々人の適正やモチベーションを重んじた希望などを根拠とした異動を実施したりしている。また、異動、退職に伴う人的環境の変化があった場合は、可能な限り、ダメージのないように新規職員が関係性をどう構築したらよいか、在職者とのコミュニケーションに努めてもらっている。</p>		<p>職員の退職や異動に関してはサービスの質を低下させない為にも、時には新規職員を厳しく指導する場面も想定されるが、お互いの信頼関係やモチベーションが低下しない為にも、法人の基本理念に基づく方向性だけは常に意識をしていきたい。</p>
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>労基法遵守の上、門地、性別等で採用の基準から排除することのない採用を実施している。就業規則、社会通念上の行動規範を守られている限り、ご利用者との関係性や建設的なホーム作りに専念して頂き、社会的役割への満足度や自己実現の場創出に努めている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>徹底した現場主義の元、ご利用者との日々の関係性の中で、または、法人の勉強会の中で、人権教育を幅広く実施し、法人の基本理念である「敬愛」の精神を持って、日々の接遇に努め、人生の先輩として人権を侵害することのないように努めている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>当法人の併設施設との内部研修の開催や今年度から会員となった福岡県グループホーム協議会に参加し、伝達講習を実施している。「自発的に学ぶ姿勢は最終的には自分に還元される」と言う法人の考えを元に、職員個々の目標管理シートでケアに関する事項やキャリアアップを個人目標として明確化し、スキルアップを励行している。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>大川市で設立された予防介護説明会、意見交換会への参加を通してのネットワーク作りへの建設的な着手を心がけている。福岡県グループホーム協議会の会員となったことで、同業他社との交流促進の環境が整い、今後も積極的な関わりが持てる条件整備に努めた。</p>		<p>福岡県グループホーム協議会の会員となっていない施設も多く、同業者との交流、意見交換、施設見学等が促進できる様な人脈を広げていきたい。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>法人内の地域密着型施設3施設が集まり、ご利用者、ご家族、地域住民との交流会を1回/月開催し、お互いの意見交換の場や地域のボランティアを講師に招く等してスタッフと諸々の関係者との交流の場を設け、常に新鮮な話題があるように務めている。又、互助会主催の親睦会等に参加しストレス解消に努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>チームケアを実現するためにも「敬愛」の理念の元、職員個々が自主的にサービス向上を目指しているか、スタッフにも認識されるように常に把握する姿勢を示し、目的意識と向上心を持って働ける場所となるように努めている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>まずは、信頼関係の構築に努めた上、ご本人の一番話しやすい場所にてご本人自身から言語による訴えまたは、非言語的コミュニケーションに心がけ、具体的に求めているサービスを探求するように努めている。</p>		
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご家族との会話の場所を作り、複数人のご家族のご意見をお聞きするように努め、家族の福祉も充分考慮するように運営をはかっている。</p>		
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談内容や公的介護保険サービス、インフォーマルサービスの利用状況によっては、居宅支援事業所を紹介したり、関係諸機関を紹介したり、収集してあるパンフレットを差し上げたりしている。</p>		
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ご利用(ご入居)に至るまでに当法人のケアマネージャーや苑のスタッフ等可能な限り、まずはご本人の生活空間へ出向き、馴染みの関係の構築に努めている。関係性が出来始めた時点で苑にご家族とご一緒にきて頂き、ご利用者との関係性や食事を共にして頂いたりして情動面での安定性をご家族の協力を得る中ばかり、ご入居に繋げている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>当法人の理念である「敬愛」の精神の元、「介護する、介護される」固定的な関係性を持つことなく、人生の先輩として敬い、共に協力しあいながら生活させて頂く人間として接し、学びの場とさせて頂いている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えている関係を築いている	「敬愛」の理念の元、「介護している」と言う驕りの気持ちを持つことなく、別々に暮らさざるを得ないご家族、ご本人の痛みを察した上で、共にご利用者の気持ち、深層心理を把握するように努めている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	肉親の情愛こそ人間関係の根本と考え、帰宅支援や来苑された時は、触れ合いの時間を設け、別れて生活されていてもお互いの存在を感じられる生活支援のあり方に努めている。また、祭事への参加、外出等も積極的に支援している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の生活が職員だけとの関係性で充足されないように務め、なじみの神社仏閣への参拝や地域の名所めぐりに努め、地域住民との触れ合う機会を設けるように努めている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一つの生活共同体に生活している生活者同士として主体的に暮らして頂けるように、その方の得意なことや相性等を把握し、相互扶助の精神を持って暮らして頂けるようにスタッフが関わられるように努めている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去先へのご訪問やご家族には、退去時、契約終了となっても頂戴したご縁は大切にさせて頂く旨を説明し、ご希望があればいつでもご相談にのれるように努めている。		
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居前の事前面接、ご入居後のご本人の心象の変化等の時の経過と共に関係性が深まる過程で、ご意向等の把握に努めたり、コミュニケーションの困難な場合は表情の変化、体動等の非言語コミュニケーションに努め、ご利用者本位の意向を探求している。		苑内の月間目標においてもコミュニケーション及び非言語コミュニケーションの探求について掲げていたが、今後職員はより勉強していく機会を設け、ご利用者の思いや気持ちの理解に努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族等との話の中に出てくる自己回帰に繋がる昔の話等を参考にして、ご利用者の生活歴や習慣等の情報収集にも努めてたり、以前利用されていた介護サービス事業所等のご協力を得る中、把握に努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ご利用者一人ひとりの生活リズムの把握に努め、集団処遇に陥らないように努めている。又、日々変化するご本人の心情、深層心理等の把握に努め、生活行動、心身の状態等を総合的に捉えるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	可能な限りの他職種間、ご本人、ご家族の意向または話し合いの場を定期的にまたは適宜設け、偏向したサービス計画に陥ることのないように努めている。		ご利用者の言われた言葉だけでなく、表情や体動などからも観察し、ご利用者の視点からの介護計画に少しずつではあるが変化している。今後も継続して取り組みたい。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは定期的実施(およそ1回/3ヶ月)すると共に心身の変化、退院後の状態変化に応じ、適宜実行している。又、ご家族のご要望、ご本人のご意向、ご利用者本意のスタッフの気づき等に対しても臨機応変に計画変更(改善)が出来る様に努めている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを基本として、生活変化シートの活用、食事摂取、水分、排泄、バイタル、体重変化等の身体状況の記録をまとめ、スタッフ間、他職種間での情報の共有に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	老々介護をされていたご家族、独居生活をされていたご利用者等ご入居前の家族構成に応じた支援の実施をしている。看護職員、ケアマネージャー等は24時間オンコール態勢をとり、臨機応変な対応を可能としてると共に天然温泉による足湯を当法人は有している為、メンタル面の癒し等も実行している。		ご家族の知人や地域の方からの相談にも気軽に応じられるように、時には訪問支援も行っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的に行われている民生委員の訪問については、地域資源の情報を共有させて頂くことで、協力・連携体制の維持強化につながっている。また地元の小学生、中学生との交流や、防災訓練の際には消防署にも協力頂いている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現時点での他のサービスの活用はないが、ご利用者やご家族の意向、また状況の変化等に備えて、他の事業所やケアマネジャーとは適切な連携体制を整えている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現時点で地域包括支援センターとの協働の機会はありません。		地域の総合相談窓口としての地域包括支援センターにケアマネジメントや権利擁護等の相談を今後積極的に行っていききたい。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者本人やご家族と十分に話し合い、受診する医療機関とは常日頃連携をとらせて頂いている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	徘徊や帰宅願望の強いご利用者の方については、定期的に精神科へ受診しながら適切に薬が処方されている。また具体的な対応方法についても相談させて頂くことで、ご利用者が日々穏やかに過ごして頂けるよう努めている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	事業所勤務の看護師は、ご利用者の健康状態を十分に把握し、投薬を含めた日常的な体調管理や介護職員への指示も行っている。また、各医療機関との連携の際にも適切な情報提供を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院された際にはできるだけ毎日面会に行き、ご本人の状態把握、医療機関やご家族との連絡も頻繁に行うように努めている。早期退院に向けての連携が常日頃よりできている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方については、ご本人やご家族の意向を伺いながら、かかりつけ医とも連携をとり、ケアの方針を共有するよう努めている。</p>		<p>特に経験の浅い介護職員に対しては重度化や終末期への対応について不安を持たせぬように、しっかりとサポートしていきたい。</p>
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>ご家族にもご協力頂きながら支援できている。できるだけ面会に来て頂けるように呼びかけ、かかりつけ医の受診も付き添って頂く。またご家族の顔を見られることが、ご本人にとっての精神的な面での支援に大きく関わっている。医療機関とは事業所で「できること・できないこと」の方向性をしっかりと共有した上で、緊急時の対応方法等についても確認をしている。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>入退所等で居住の変更が余儀なくされる際には、関係者間でご利用者の心身の状況について適切に情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐように努めている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>居室などの入室時にはノックをしたり、トイレ介助の際には外で待つなど、当たり前のことを徹底してできるように努めている。ケアの場面においても不適切な言葉遣いのないように、職員間で注意し合うこともできている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人のやりたいこと、できることを大切にケアを行っている。ただ単に利用者に「やりたいことは？」と聞くのではなく、表情や心の声からもしっかりと観察できるように職員は努めている。		センター方式の学習をより深めていくことで、ご利用者の希望がより具体的に実現できるように、引き出す努力をしたい。
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務が毎日スムーズにこなせているとは決して言えない。しかし裏を返せば、職員の業務を優先するのではなく、利用者主体に支援できているからだと考えている。ご利用者は毎日同じ生活リズムであるとは限らない。調子の良い日もあれば悪い日もある。状況に合わせた臨機応変な支援ができるよう毎日意識している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	起床介助時には、その日の着用の衣類をご本人に選んで頂く。また外出の際は、何を着ていこうか楽しそうに悩んでおられる。理容・美容は訪問によるサービスを利用して頂き、希望に応じたカットおされている。		理容店・美容店に馴染みのお店があるならば、行けるように支援したい。
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者にとっての食事は、健康な身体の維持だけでなく、1日の中で楽しみにされている時間でもある。畑で作った野菜を収穫し、季節に応じた食材を提供、買い物や準備、片付けはもちろん一緒に行っている。また食事の際は音楽を流し、職員も一緒に食べることで会話は弾み楽しい雰囲気となっている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご利用者の嗜好品は入所時に調査させて頂いている。日常にお酒を飲まれたりタバコを吸われる方はおられない。誕生日会の際には食べたい物を確認し、メニューに取り入れるようにしている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ご利用者の排泄状況については、その都度チェック表に記載し、排泄パターンを把握している。必要に応じてトイレ誘導も行うが、声かけの際には大きな声をかけるのではなく、プライバシーには十分配慮をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴についてはご利用者の希望を尊重させている。毎日入浴されたい方、2～3日に1回の方、拒否のある方とおられる。時には隣の小規模多機能施設にある天然温泉で入浴することもあり、楽しみにされている方もおられる。</p>	
60	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>できるだけ規則的な生活リズムをご利用者ごとに把握することで、夜間は良眠していただけるように支援ができています。昼間もご利用者の体調や生活習慣に合わせてホールの畳や居室で休息して頂くなど臨機応変に支援ができています。</p>	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>各ご利用者の得意なこと(洗濯物たたみ、おしぼり作り、食器拭き、野菜の皮むき、畑仕事の手伝い、買い物)など共同生活の場面で役割を担って頂くことで、その人らしい暮らしの維持ができています。</p>	<p>中には重度化され、積極的でない方や今までできていたことができなくなる方もおられる。そのようなご利用者へのサポートもより深く検討していきたい。</p>
62	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の自己管理をされている方はおられないが、外出やショッピングでほしい物があれば購入できるような支援は行っている。</p>	
63	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>周辺環境にも恵まれ、日常的に筑後川の土手や、隣の足湯など戸外に出かけられるように支援ができています。また畑での作業はご利用者に目的を持って頂き、外出したいとの意欲を高める効果をもたらしている。ご利用者の生活歴に合わせた日常的な支援の場の提供にも努めている。</p>	
64	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>地域行事は文化を懐かしむ機会を与え、特に大型ショッピングセンターに行くたびつくりされる方や興味深々で買い物される方とおられる。ご家族の方にも協力を呼びかけ、ご利用者にとっては心身の活性化につながっている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話番号まで覚えられており、電話をされることもある。行事の中でハガキ作り(文の日)もあり暑中見舞いなど、各自が手紙を大切な方に届けられるようにも支援している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来苑しやすい雰囲気作りに努めている。職員は明るく挨拶をし、居室やホールで居心地良く過ごされるように配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については原則禁止である認識を職員全員が持つことができている。現在、ご家族の希望及び安全対策の為やむを得ずベッド柵で拘束対応されている方が1名おられるが、身体拘束をしないケアについては常に検討している。		身体拘束をしないケアが必ず実践できるように、職員はご利用者の安全も確保しつつ、スキルアップを図ってきたい。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室出入口、玄関は日中鍵をかけることはないがセンサー音で管理している。音に頼り過ぎないように職員は注意して外に出られようとされる方もおられるが、職員が付き添いながら対応している。職員の休憩時間も施錠していないので、安全面に十分注意をして見守っている。		事業所だけですべての安全を担うのではなく、近所の方や最寄りの交番にも協力を呼びかけるように話し合いをしてみたい。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間、ホール以外の場所で過ごされるご利用者については、プライバシーに配慮しつつ職員は必ず、声をかけ所在確認を行っている。夜間についても各居室を定期的に巡回しご利用者の安全確認・状態把握を行っている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ハサミ、刃物類、薬などについては適切に管理を行っている。自己管理が可能な方についても危険がないよう確認を行い、お持ち頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	月1回の職員会議、法人での感染対策及び事故防止委員会において事故防止に向けて十分検討し、職員は発生時のマニュアルを把握し、事故発生時には適切な対応ができるよう指導している。また事故防止の為、ヒヤリハットの提出も促している。		ヒヤリハット報告の提出がほとんどない為、今後は提出を積極的に促し、データを集計、分析することで事故防止に向けて取り組んでいきたい。
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時・緊急対応マニュアルを作成しており、勉強会の場においても定期的に学習する機会を設けている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、防災訓練を行い全職員が消火器、防災機器、避難誘導方法が熟知できるようにしている。また地域の消防署とも連携をとりながら災害対策については繰り返し確認を行っている。		地域の人々の協力を得られやすくする為にも、運営推進会議の場においても、災害対策の話や防災訓練等が実施できればと考えている。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご利用者の状態に応じて想定される事項については、ご家族に対して事前に十分説明を行い、意向を伺いながらケアの方向性を共有できるように努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックだけでなく日常的な観察は常心がけている。ご利用者の表情や活動性などの状態に異変があれば、看護職員やケアマネジャーに報告し指示を仰ぐ体制を整えている。早期発見、早期受診できる対応に努めている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者が服用されている薬の内容についてはファイルを作成し、全職員が確認できるようにしている。看護職員が毎日の配薬を準備し、介護職員は必ず二人で声を掛け合い、誤薬のないように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	各ご利用者の排便チェックを行い状況は確認している。バランスの摂れた食事と水分摂取、適度な運動を基本に便秘予防に努めている。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後必ず口腔ケアを実施しており、入れ歯の不具合や口腔内の異常の早期発見、誤嚥の予防にもつながっている。		歯科医とも連携をしながら、口腔内の清潔保持についてはより意識を高めていきたい。
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の際の献立については栄養士の指導のもと、適切な栄養バランスの摂れた食事が提供できている。食事形態については家族や医療機関とも相談しながら臨機応変に対応している。食事や水分摂取量については確認を行い、少ない方については嗜好品をすすめるなど栄養不足や脱水症にならないように努めている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人内で感染症対策及び事故防止委員会が毎月開催され、対応についての確認がされている。また職員の勉強会でも学習できる機会を設けており、全職員感染症に対する理解を深めるよう努めている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所周辺の清掃を徹底すると共に台所用品の消毒も定期的に行い、清潔を保持し衛生管理を行っている。食材は前日に購入し、新鮮で安全な食品の提供に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先や建物周辺には花、植物、カメが置かれ、親しみやすく、出入りしやすい環境作りを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	置物や書、絵などを飾り、廊下にも観葉植物を配置するなど落ち着いた雰囲気作りに配慮している。またご利用者による貼り絵等の作品の掲示、行事の写真も展示するなど生活感、季節感が感じられる空間作りの工夫を行っている。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にはソファ、テーブル、チェアが設置され気合ったご利用者同士で会話されている場面がある。ホールでは畳みでゆっくりとテレビを見ながらくつろげるスペースがある。天井が高く圧迫感のない空間がご利用者を特に安心させている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者には私物をできるだけ持ってきて頂くようにご家族にも呼びかけている。使い慣れた家具や電化製品、写真等は居心地良く過ごされる為には不可欠な物となっている。また衣類等についてもご家族と協力しながら季節に合わせて衣替えができるように支援している。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓を開放し、空気の換気に努めている。有明海近くの潮風をご利用者は感じて自然の環境を満喫されている。また各居室にはエアコンが設置され、季節によってはご利用者の体感に合わせて使用して頂いている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の状態に合わせ、移動補助の為に椅子を設置されるなど環境づくりの工夫を行っている。また建物内の段差は最小限であり、手すりも取り付けられ、廊下は車椅子の方も自走できるスペースが確保できている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや浴室までの方向を掲示したりプレートを掲げることでご利用者の混乱を回避している。また居室前にも名前札、写真等を掲示することでご本人の居室である認識を高めて頂いている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気の良い日には駐車場付近で体操やレクリエーションを行う事もある。畑作りも積極的に行い、疲れた身体を中庭の足湯で癒して頂くなどメリハリのある日常生活を過ごされている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当苑は、筑後平野の母なる川、「筑後川」沿い位置し、筑後平野から昇る朝日、有明海に沈む夕日と筑後に生きた方たちにとっては原風景の中、日々暮らされており、地域密着型サービスにとっては非常に適した立地条件にあると言えます。

慣れ親しんだ自然の風景の中で、筑後の自然に内在する癒しの力を十二分に取り入れ、隣接する足湯につかったり、畑を耕したり、自然との共生感を大切に
 する中、当法人の「敬愛」の理念の元、ご利用者を単なる施設利用者ではなく、ご利用者の存在をひとりひとり人格を有した生活者として捉え、自らが主体的に暮らして頂けるように、「介護」の名の下に、ご利用者主体の生活を取り上げることのないような生活支援に努めています。

また地域の行事を通じての交流もご利用者の楽しみの一つです。大川市民木工祭りや風浪宮大祭などには昔の思い出と重ねながら参加されており、大川木の香マラソンでは手作りの旗を持ち、多くのランナーを応援されています。